

**優先施策「市民・事業者の取組促進に向けた
牽引者の育成」について**

平成 27 年 8 月

小田原市エネルギー政策推進課

未来へつなげる担い手の育成（市民・事業者の取組促進に向けた牽引者の育成）

3-②市民・事業者の取組促進に向けた牽引者の育成

1 背景

- 小田原市エネルギー計画の計画期間である2022年までに、計画に掲げる大幅な再エネ率の向上を達成するためには、**市民や事業者がエネルギー計画の目標を共有しつつ、それぞれの役割や責務を果たし、一丸となって効果的に推進することが重要。**
- 再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギー化の推進を自立的に進めるには、講演会や市民意見交換、さらに市内での取組を発表する機会を設けること等により市民や事業者の関心を高めるとともに、取組を推進する牽引者の育成が必要。

2 事業概要

(1) 講演会や市民意見交換会の実施

再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギー化の推進について、市民、事業者が関心を深め、自らが行動を起こすことができるような講演会や、市内での取組発表など市民が参加できる意見交換会を開催する。

(2) 市内の取組の情報発信

市内で実施されている再生可能エネルギーの利用や省エネルギー化の推進に係る取組を紹介することで、新たな取組を喚起する。

エネルギー使用量の削減、目標達成

-
- 1 人材育成、意識啓発
 - 2 仕組みづくり、事業化検討
 - 3 直接の効果、自立的な推進



講演会や市民意見交換会を実施

- 講演会等の開催

人材育成



率先行動

- 再エネ導入・省エネ行動等の実践



- 広報等による取組紹介

情報発信

事例発表会や広報等による市内の取組の情報発信

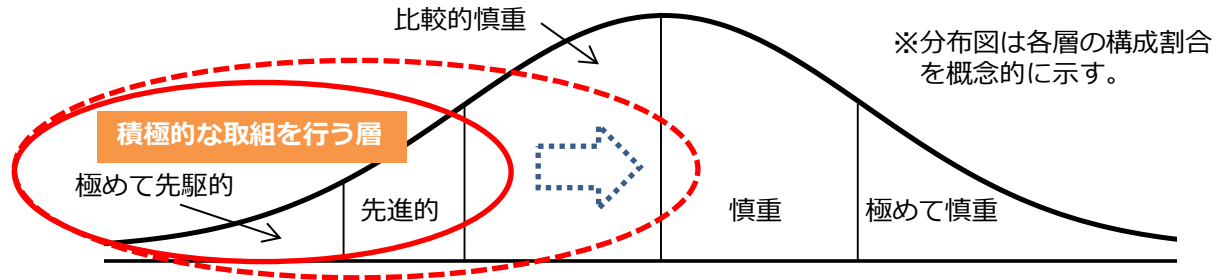


牽引者の育成と活躍の場の創出及びその論点について

- 牽引者には、率先的な行動のほか、慎重な多数派に対し影響を与え、取組への機運を醸成することが望まれる。
- 人材育成はそのものが目的化しないよう、勉強会等と人材が活躍する場とセットで創り出し、持続的な取組とする仕組みづくりをする。
- 勉強会等は、アプローチする層によってテーマを変え、最大限効果的に再エネ導入等の機運の醸成、拡大を図るものとする。

<小田原市の考え方・取組方針>

牽引者となりうる積極的な層へのアプローチを行い、構成割合のうち多くを占めると想定される「**比較的慎重な層**」への波及を目指す。



牽引者・人材育成



牽引者等の率先行動



再エネ導入、省エネ化の推進

人材の育成そのものは目的ではない。牽引者やそれに追随する層による実際のアクションを促す仕組みを伴わなければ、持続的かつ自立的な取組とならない。

牽引者・人材育成



牽引者等の率先行動



再エネ導入、省エネ化の推進

育成する人材に**活躍の場を創り出し、目に見える効果を生むことで、持続的かつ自立的な取組としていく**必要がある。

牽引者は、エコ診断士等の有資格者や率先的に取組を行う市民など、市民・事業者問わず取組の内容により様々であることが考えられる。人材育成自体が目的化しないよう、**育成する人材に活躍の場を創り出し**（他の実践型リーディングプロジェクトと連携？また、各主体自身もそうした人材を積極的に活用できるように検討を進める必要がある。）、自立的な取組を促す仕組みづくりが重要。さらに**その成果を市が積極的に情報発信することで、各主体がモチベーションを維持しつつ持続的な取組につながるような仕掛けを行う**。取組に対する受容性の違いを踏まえ、それぞれの層でテーマを分けて講演会等を設定し、段階的に取組の機運の醸成、拡大を図る。

<論点>

- モチベーションを維持するために、どのような仕組みを構築することが有効と考えられるか？
- 持続的かつ自立的な取組とするために各主体においてどのような取組を行うことができるか？
- 人材育成自体が目的化しないよう、各主体において育成した人材に活躍の場を創り出すことができるか？
- その他、どのような取組が有効と考えられるか？